

大学勤務医の情報ニーズと情報習慣

小宮 美雪（福岡大学図書館医学部分館）

阿部 信一（東京慈恵会医科大学医学情報センター）

山下 ユミ（京都府立医科大学付属図書館）

.目的

臨床医の情報ニーズに関する欧米の調査では、医学情報の増加と医師の情報利用のための時間の不足という状況を裏付け、そのため医師が臨床上の疑問を解決する負担が増大し、疑問の解決の方法として同僚に聞くことが多くなったり、解決しないまま診断する、といった状況を示している。わが国における状況の検証にも詳細な調査が必要であるが、これまでわが国ではこのような調査はあまり行われてこなかったため、今回、全国の病院勤務医と医学図書館利用者を対象にした2種類の調査を実施した。

.調査方法

- 1) 調査1：全国の医科大学附属病院を対象にしたアンケート調査。（現在調査中）
- 2) 調査2：3大学（慈恵・京都府立・福岡）の医学図書館に来館した医師を対象にしたアンケート調査。調査期間：平成15年12月1日～12月5日

.結果

- 1) 調査1：現在調査中
- 2) 調査2：配布数：202部、回収数122部、有効回答数115部。回答者の内訳は臨床系医師81%、基礎系医師18%で、臨床経験年数は5年以内30%、5～10年27%、11～20年21%、21年以上17%だった。医学医療情報を必要とする目的は「学会・研修会での発表(89%)」が最も多く、入手メディアは「雑誌(87%)」、入手方法は「大学図書館(95%)」がそれぞれ最も多かった。困っていることは「必要な資料が図書館や学内ネットワークに少ない(51%)」が最も多いが、全体に満足している人が多かった(70%)。

.考察

今回と同様の調査としては、平成11年度に行われた山口らの調査*がある。この調査結果では開業医と病院勤務医では違いがあることが示されたため、そのうちの病院勤務医の結果を取り上げ、調査2の結果と比較した。前回の調査結果から著しく変化が見られた点は、電子ジャーナルやデータベース、メール等といった電子媒体の利用が増えたことであろう。MEDLINEの利用経験がある人は全体の94.8%、医学中央雑誌またはJMEDICINEも83.5%が利用している。その他、電子メールの利用も前回の44.0%に比べ、91.3%にまで増えており、近年のネットワーク技術の発達がいかに急速であったかがうかがえる。ただし、今回はネットワーク環境が充実した大学病院の勤務医が対象だった為、その事も高い利用率に関係しているのではないかと考えられる。医療情報入手についての不満に関する設問は複数回答のため、回答数を分析すると一人平均1.7件不満があることになるが、日常入手できる医療情報に満足しているかという設問には「どちらかといえば満足している」と回答した人が59.1%と一番多く、「満足している」と回答した人とを合わせると、全体の約7割が現在の医療情報にそれなりに満足しているという高い割合を示した。これは調査2が図書館利用者を対象にしたことによると思われる。

*山口直比古他：日本における臨床医に対する情報サービスの現状。In:丹後俊郎.平成11年度厚生科学研究費補助金特別研究事業報告書「21世紀の保健・医療・福祉分野におけるEBMによる新しい情報提供機能の確立のための調査研究」,2000:51-65.